

県教育委員会は今年度から、子供たちの学力アップを狙って、中学校区を基本に、幼保、小中高、大学の枠を超えて地域で一貫性のある教育をする「スクラム教育」に取り組む。初年度は、試験的に境港市や岩美町など県内6地域で実施。そのなかで、英語と数学の学力向上を目指す、倉吉市立東中学校と倉吉東高校の授業をのぞいた。

「スクラム教育」6地域試行

5月20日、東中の3年生の教室。「i t」が指しているものは何かな。色ペンで線を引いてみて。教壇に立つのは倉吉東高の置名浩樹英語教諭(29)だ。「これを見れば、はるかに長文が読みやすくなるよ」

この日は、英語の長文を読むポイントになる、代用表現「i t」が何を指すかを短文で探し出す練習を繰り返した。長文は生徒の興味を引くように人気キャラクター「スヌーピー」の誕生秘話。文中には中学校で習わない単語もあり、戸惑う生徒もいたが、置名教諭は「知らない単語があっても気にしない。まずは読み進めて」。次の授業で、学んだことを生かして長文読解に挑戦する。

東中は、倉吉東高と協力して生徒の英語、数学の学力向上を目指す。双方の教諭が生徒の苦手分野を話し合い、英語は長文読解に重

中学の英語 高校教諭が指導



「『i t』が指すのは何だろう?」。長文読解に挑戦する中学生たち＝倉吉市宮川町2丁目の倉吉市立東中学校

点を置くなど、年間テーマを決める。今は、月に1回、高校教諭が中学校で授業をしている。東中の浜根智子英語教諭(55)は「中学校の教科書は長文が少ないが、高校入試には出てくる。長文を見た瞬間、苦手意識を持つ生徒もいる」。東中の朝井正教校長は「高校の先生が中学で授業をすることで、生徒の刺激にもなる」と学習意欲アップにも期待。倉吉東高の牧尚志校長も「中学校で教えることで教員の勉強になり、お互いの授業の充実につな

がる。将来的には一つの教育モデルにまで発展すれば」。県教育委員会小中学校課の大西泰博指導主事(49)は、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、「鳥取の子どもたちは基礎学力はついていて、応用する力や学ぶ意欲が伸び悩んでいる」と話す。2007年度(小学校6年生時)と10年度(中学校3年生時)の学力・学習状況調査で、共に対象となった児童・生徒の点数を全国正答率と比較。例えば数学(算数)の知識を問う問題では、小6時は、正答率が全国より2・1割高かったのに対し、中3では1・5割差に縮まった。国語の知

識を問う問題でも2・7割差が、2・0割差になった。県教委は「小学校でのつまづきが解消されず、伸び悩んでいるのでは」と分析する。

最も危機感を持っているのが、子供たちの学ぶ意欲の低下だ。「数学(算数)が好き」と答えた割合が小6では全体の3分の2だが、中3では5割を下回る。さらに「学習したことを普段の生活の中で活用できないかと考えますか」との問いに小6では肯定的な答えが5割を超えたが、中3では3割に低下した。

県教委はスクラム教育で学力向上を狙うと同時に、知的好奇心を刺激し、学習意欲を高めた考え。初年度は、中学校区を中心とした6地域がそれぞれテーマを決めて取り組んでいる。岩美町立岩美中では、校区内にある保育所、3小学校、岩美高と連携し、国語・数学の学力向上に取り組む。また、境港市立第一中では、鳥取大学なども連携する。

県教委は、取り組みの成果を分析し、今後全県で広げていきたいという。

(才本淳子)